



柳菴雜筆

15
1489
1

柳菴雜筆冊四



門 5
號 1489
卷 1

栗原信充著

全部四冊

柳菴雜筆

早稻田大學圖書館
34.11.6
藏書

東都書林 知新堂發兌



余十餘歲初見輪池屋先生先生
語云子幼冲頗解讀書須無惟閑
居講究學問慎勿損稽古之暇以生
驕慢之意矣尋入先生之門受入木
之道又與先生所編古今要覽事
先生藏書且五萬八千餘卷多是
名山石室之所藏絕代之奇書余

也。幸得曬掃之間，窺之者亦先生之賜也。侍予先生三十年，有所請益，則書諸紳。且堆然矣。後病脚去，所職而家居。家之北，昌平楊也。西紅梅阪也。占地不盈一畝，為小圃，為盆池，老屋數椽，又築土倉二棟，雖無長物，唯貯書萬卷，度

置其中，獨坐其中，校讀以取樂。倦則趨於圃，植以花草，勞息生於池畔。池水清冽，游鱗洋洋，亦可以樂也。夜則與兒輩，發經史疑義，及歷代之沿革，又取往時所鈔得聞見於名流交游，秘局奏冊，校讎言編纂，歛實於先生。先生既亡矣，以問於

世希是正錄次伝手不似類相從
故云雜筆答下有小柳數株是
柳菴之名所緣也云尔弘化第二
年仲冬之吉甲斐岡源氏栗原
信充記并書



柳菴雜筆卷之一目錄

世鏡鈔百貫領主馬一疋持と云事 中間乃録
衛士乃録 平家物語乃作者
梅畑乃戴袋 挿翹と猩々乃誤
假面工 缶
五畝乃宅 百畝乃収 野々村彦九郎門乃事
松本民部少輔箭行を提了植一奉
七首 朝鮮戸藉
疾根乃儉徳 妓王 妓女乃父乃名
頼朝卿尊氏將軍夫婦相姓同く事
口文錢乃始 宿帳 補

秀吉公関白成御祝乃獻之

又腰刀

逸史乃訛

三井家系

宿賃

大佛入用

鶴見原

柳菴雜筆卷之一目錄終

柳菴雜筆卷一

栗原信充 著

○世鏡鈔。百貫領主馬一疋。より。地頭ハ馬を疋より。
 年中小食物之十四貫あり。是より心得へ。相残る六十
 六貫。不慮廿貫。中間三人廿貫。家物廿貫。我物残六貫。遊
 の料大唐ふハ。千貫領主馬一疋。年中小之百二十貫。食
 物とあり。以書序ハ西園寺右大臣公家ふ。跋々
 慈照院贈太相國義政家の撰あるハ。延徳二年前ふ
 了書おれ。論あり。慈照院殿ハ。延徳ニ。此頃乃
 應仁以後。錢あり。中間一人乃給ふ。六貫。六百六十文。ふ
 文明の頃。知へ。又百貫乃家ふ。馬を之。中間三人と云。残

考
畧
云

抑菴雜筆卷之一

狐草子所載中間

ちうんとおりく
 ちうんとおりく男ニ人
 くしたる

又海人藻芥ふ門跡
 人数と下の事出世者
 禅侶者 法大の息
 坊官 大長息の息
 侍法肝 二綱をつとむ
 中童子 中間法肝 承仕をつとむ
 北面等の侍る
 坊官 大長息の息
 侍法肝 二綱をつとむ
 中童子 中間法肝 承仕をつとむ
 北面等の侍る
 坊官 大長息の息
 侍法肝 二綱をつとむ
 中童子 中間法肝 承仕をつとむ
 北面等の侍る



依藤太繪詞所載中間

本平記は山本九郎
 時綱た一騎中間二人
 長刀を合せて
 とあるを合せて



信光図

を。世鏡鈔乃割合ふとく。昔乃一貫文。今乃金四拾八匁
あり。然れハ昔乃世に貫ハ今乃金廿七兩と拾八匁あり。是
を食物とか。一日一人白米四合。塩麴十六文と積置て
一年分白米五石四斗。代金八拾塩麴六貫文。金と換れハ
分ハ麓合とく。金四兩と外拾五匁七分八釐余あり。廿七兩拾
五匁あり。拾五匁人分と。殘金七拾五匁五分八釐あり。次ハ慮
廿貫ハ今乃拾六兩あり。衣服其外ハ用拾へ。中間廿貫
ハ亦十六兩あり。僮僕乃手當。客物廿貫ハ。臨時入用あり。
殘六貫ハ。四兩五分三釐あり。遊宴乃料不充へ。あき世
鏡鈔乃割合あり。出入差分人々乃意ぬ。あきへたれ
と。僮僕客物乃料を節へ。及馬一疋乃飼料十兩計ハ

出さるる。あき世現米八十石を騎士乃禄と定められ
あきる。あき世

○上古衛士乃禄大寶令了見。あき世を集録とせば。本國
乃に分回二段乃獲稻百束。絶二足。代直稻二。綿一屯。代
稻十束。一約。代直稻布に端。代直稻。登。代。代直稻。鐵二
束。代直稻。合稻。四。代。十。代。束。代。米。今量乃十一石。〇。
六合。〇。九撮。又抄。ふ。當れ。里。代。外。了。日別。一升。二合。一升。乃
一合。六。白。之。撮。六。代。當。を。給。と。あき。形。り。十一石。〇。〇。六
石。二人。粟。食。少。強。あき。を。給。と。あき。形。り。十一石。〇。〇。六
合。〇。九撮。又抄。乃。米。あき。今。乃。代。物。成。廿七。俵。余。ふ。當。る。今
同心。乃。禄。十石。又。斗。二人。粟。食。乃。淵源。と。云。へ。一
○平家物語乃作者醍醐寺雜抄。ふ。或。平家雙紙。奥書。ふ。云

平家物語乃作者醍醐寺雜抄

當時命世乃盲法師了義坊實名乃說平家物語中
山中納言顯時子息左衛門佐成隆其子民部推少輔時
長也也を作又將門保元平治以上に部同人作云々
此時長前平家廿四卷之本を作伊勢太神宮小籠
説也也佐渡院乃御時也順徳院後嵯峨院御在位乃時
吉大貳資經作乃平家物語民部少輔時長書之合戰乃
事才覺あきふ依く源光行小訛之十二卷平家資信卿
書之と見ゆ今考ふ了義坊如一日件録文安五年八月十五日乃
條か了性佛乃後如一檢校と云者あり覺一城一乃師
ありと云者あり今盲人一方乃閑人と為其時代定
かからりと云共其弟子覺一應安元年六月廿九日没

故と常樂記に載た也ハ是より前乃人あると勿論
去は兼好法師と由時を同くせ里然る兼好乃代
物語信濃前司行長乃作あり慈鎮和尚乃時と云里
慈鎮和尚嘉禄元年九月廿八日七十一歳入滅
と座主記に見ゆ兼好乃説乃如くは此物語嘉禄乃前
小成ありあり兼好三年より吉田大貳資經卿嘉禄
元年田十又歳あり源光行を清和源氏鎮守府將軍端
政満仲八代乃孫河内守光行あり東鑑小承久三年八
大監物光行を清久又即行盛相具く下向せいは
金洗澤小於誅戮せら敷庵あり光行乃嫡男民
部大輔親行泣々愁申ふ依く其罪を宥らる往年光行

乃父豊前守光秀平家ヲ與ハ右幕下乃誅ス處セラレ
けり時先行一向慈悲志死を援たり。芳因あるへ
と記せり。先行承久乃亂ヲ自親周旋。心中ハ蘊蓄
せる感慨を父に經歷せし平家乃故事ハ就テ發露セ
家あらん時長乃父盛隆一奉乃姉ヲ平太納言時忠卿
乃室家ス。安徳天皇乃御乳母典侍乃局ト云是カ
又盛隆乃継母ヲ刑部卿忠盛乃女カ也。平相國入道
淨々盛隆母方乃叔父ハ當分統也。是等ハ人々平家
繁昌の事實ハ耳ス。眼ヲモ熟セカ。承久ハ抑承久
乃亂ヲ天地乃大變カ。里六月十日。宇治合戦敗レ。
官軍潰走。之上皇蒙塵。乃後日月ヲ誰為ス。宇宙を照

臨シ。君臣乃義父子乃道誰を適ト。協從セヘ。義
時乃官々右京權大夫兼陸奥守位。後位下。ハ
順徳院乃宜旨カ。以テ品乃官職ハ居。上ハ鸞輿
を僻遠ヲ移。自伊尹乃賢ハ擬。下ハ公卿を濫殺
志。却。鼻陶乃徳ハ比。然。以。自慙。不。形。是
諸家乃年家物語を作。所以カ。心ヲ静。ハ。能。平
家を讀。入道相國乃驕奢暴戾カ。最。島一紙乃起請
文を要。一。縑甲兵具卒衆。乃猛威。ハ。澄憲法印。一時乃説
法。折伏。セ。其。衷心。の。如。王法を敬重。君臣
乃大義を忘。以。今乃義時乃王法を棄。捐。志。武威を
逞。カ。君臣乃禮を蔑。如。私恩を慕。ると。日を同

くあや語ふるや平家乃一門即従一勝一敗あり
と云共其箭盡弓折力極るに至る主上國母より
卿相雲客卒に及ぶ皆盡く自裁せし軍門の手を束
る降虜とあふ者あし今乃官軍一人乃力戦せし死を快
せし者あし頭を延く櫬を輿ひ一日片時乃生を貪て
耻を千載に遺し身大に處る死を以て衆る事と
能て以て却る賊虜に降る衆る叛く後榮乃為志義
を忘せし輩と豈時を共あし云へんや鎌倉乃右
幕下乃意平家を討つ父乃仇を復せしと云共猶
敷宜を奉る私怨を露し今乃無名乃軍と同一
以是等乃微意あふを覺る者あし徒に賢者乃難と

あしけるに惜まれ

○山城葛野郡梅畑平岡善妙寺邊乃婦女子日毎薪
を頭り戴る京に持来る萬乃物と交易以是等を京に
るを畑人と云ふ是等戴く白布乃袋を戴袋と云ふ
片袖あふ畑袋と云畑人乃持袋あふ畑袋頭り戴
く故戴袋を乃名義よく聞えり片袖と云名出せ心
得らぬと畑人等あ同大あ是を承久と云年の一
あふり梅尾乃上人明慧乃許へ天子仏洞攝政関白を
娘餘多落人とあし隠し居玉ひけあし男子乃分
上人乃許ふ冬集し王宮を守護し女子は是に任
諸國へ往来し萬乃物を取来り供御より下をべ

片袖袋

戴袋

細袋

片袋乃中へ藁を入り 頭ふくむ

其より薪をのせし

かまへ

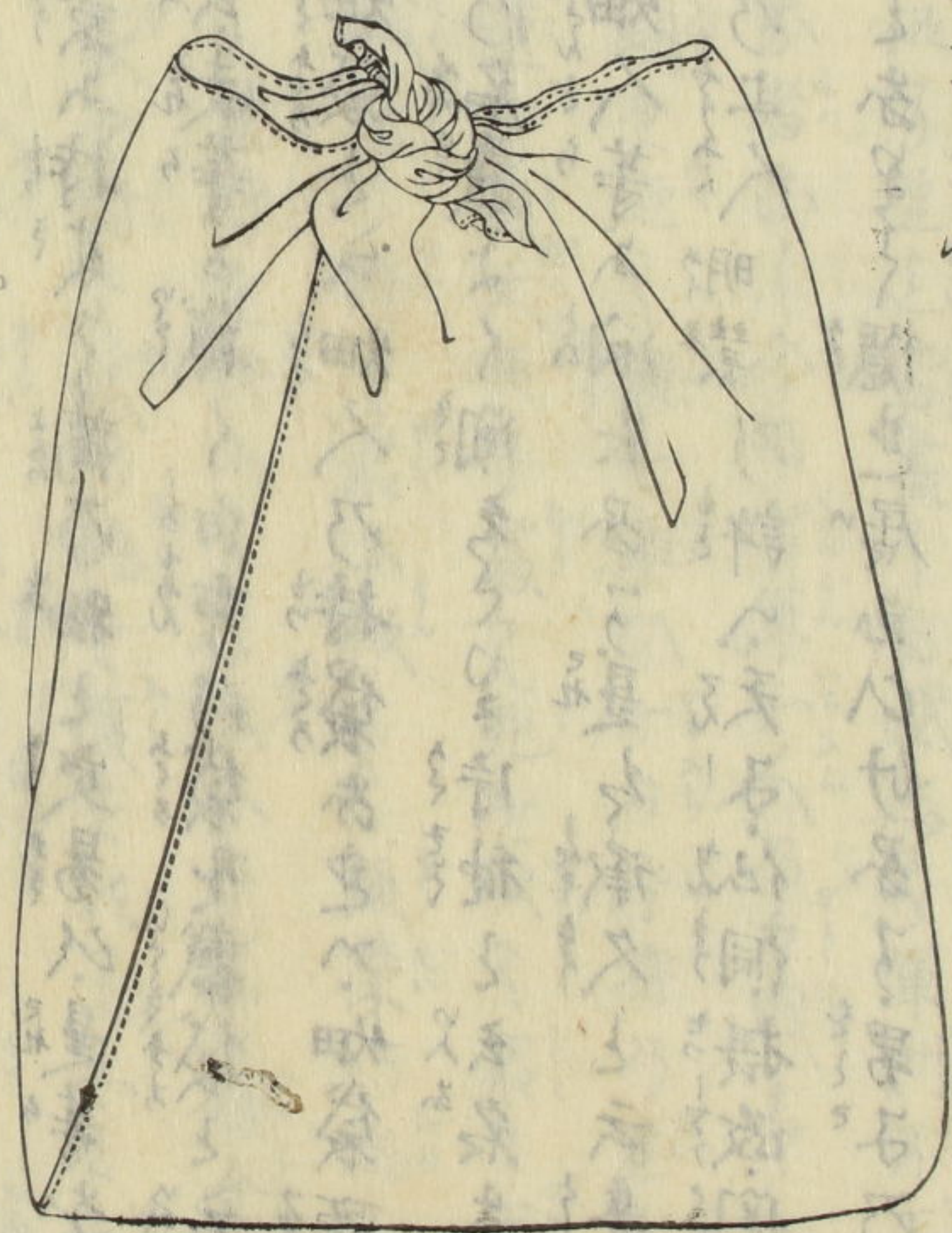
片袋の

コック

頭痛

乃ち

用ひし



朝暮乃儲みえ一時御衣乃片袖を解じけ旗袋乃形み
縫ふ是を戴きし王宮勤仕乃笠印み賜ふ里川み
去は六百年乃末の世に至りし片袋戴きしハ關渡ハ
坂何處みハあま心乃儘り往來し侍るありと語り
其袋を請得き其法量を詳み考ふる布幅一
長を鯨尺二尺三寸形二ハ折る一尺一寸又ハ大尺
乃一尺二寸餘り當り縫上り一尺三寸餘とあるへ
即令乃兵衛士等ハ袍襖乃袖一尺三寸と云ふ協へ
ハ片袖と云説ハ據あるハ他大里又後鳥羽院乃御袍
乃袖長大尺み二尺あり是を三分し二ハ一尺二
寸六分餘み當るハ片袖と全く同一然ハ後鳥羽院

乃御小袖乃法量ふ合ふ不思議乃とあらきや

○天保六年乃秋、狸壽狸美と云童男二人出来るその母と
世豊前國宇佐郡小濱村乃民乃子あふり同一村乃狸魚師
善兵衛り妻とありぬ去共家貧く生産乃貧乏一けし
かり任せし嫁せんため身々と別也。まゝ他國へ出で
妻を兄乃家り歸り日々ふり入る樂を熊里り鬻て價
を求め實を敷ありけり。時とし氣を失ひ暫ハ
人心地から事度重し。遂に懷妊あき狸壽を産
文政八年、髪乃毛赤く狸々り似り。又まゝ同一様
かりけり。狸美生也。たゞ文政十一年、
と同一是を狸々り犯さたあからんと人皆言傳へて

珍しき愛るる從ひ江戸より來れり形も赤雅
小挿翅春々山獺骨あり能續骨解箭用為丸海狗腎
勝里一枚十金私貨り畧を出る者斬山獺性最淫
物皆交交一二日乃至と休も獺あき諸北悉避く
獺偶あり獺女西南夷を采藥歎歎と云ハ獺肉氣即躍
其身を抱り遂に色を扼殺と云挂海虞衡志
山獺土人呼插翅と云ハ山中婦人の氣を同ハ必躍來
り相抱偶あれは則木を抱拊死と云あき挿翅を狸々
と誤るるへ

○假面工了日先、弥勒夜叉と云承平元年、翁三番叟
乃假面を作れりとかや其次を山城匠人文三と云長元

四年小段と其次を大和竹田任小半清光と云鹿苑院將
軍乃命小依々作也不假面多一と云永徳二年小段と其
次を越前大野任赤鶴吉成法名を一透平安城に桑任龍
右衛門志重政と云應永十九年小段と其次を越中白氷
宗忠と云永見郡小後里任一と云永見と許中称せり
其次ハ永泉乃貝塚任一越智吉丹と云其次を鎌倉
小任一徳若忠政と云寛正二年小段と其次を光法
師と云元々越前平泉寺乃任保家里一と云後々のち殿えい山
了任里是出目助左衛門ち文あ小里と云光光よ里之
光とを十作と云實作と中書里何又越前一乗任福来
正友曆應四年小段と平安城任増阿弥久次慈照院准

后乃御像作也里文明十一年小段と徳若春若忠政乃
甥なま小鎌倉了任と文龜元年小段と大和任人不翁兵衛
享祿四年小段と寶来子種也共東山い遷せん通と云六
人乃作を六作と称と出目助左衛門大永七年丁亥
生也元祿二年九十歳小段と其又代を洞雲康隆と云
八代を洞白と云西徳又年九月十日没九代を洞水満喬と云十代を
洞雲満志と云今又十代又代小常れりや
○延喜主計寮式小岳永泉國百卅二近江國六十美濃國
廿七播磨國百七十八と見也然る不其形を記し書
小西清古鑑小周乃素岳を載と云岳制衣大腹せ小
飲れん小以樂を節と一以酒漿を盛へ一永正乃疏小

日本書紀卷之六十一

口徑 二寸一分

周三尺三寸

五分八釐

腹周

二尺

七寸

八分

肩周

二尺二寸

七分

蜷川氏藏

今量七升八合八勺を容

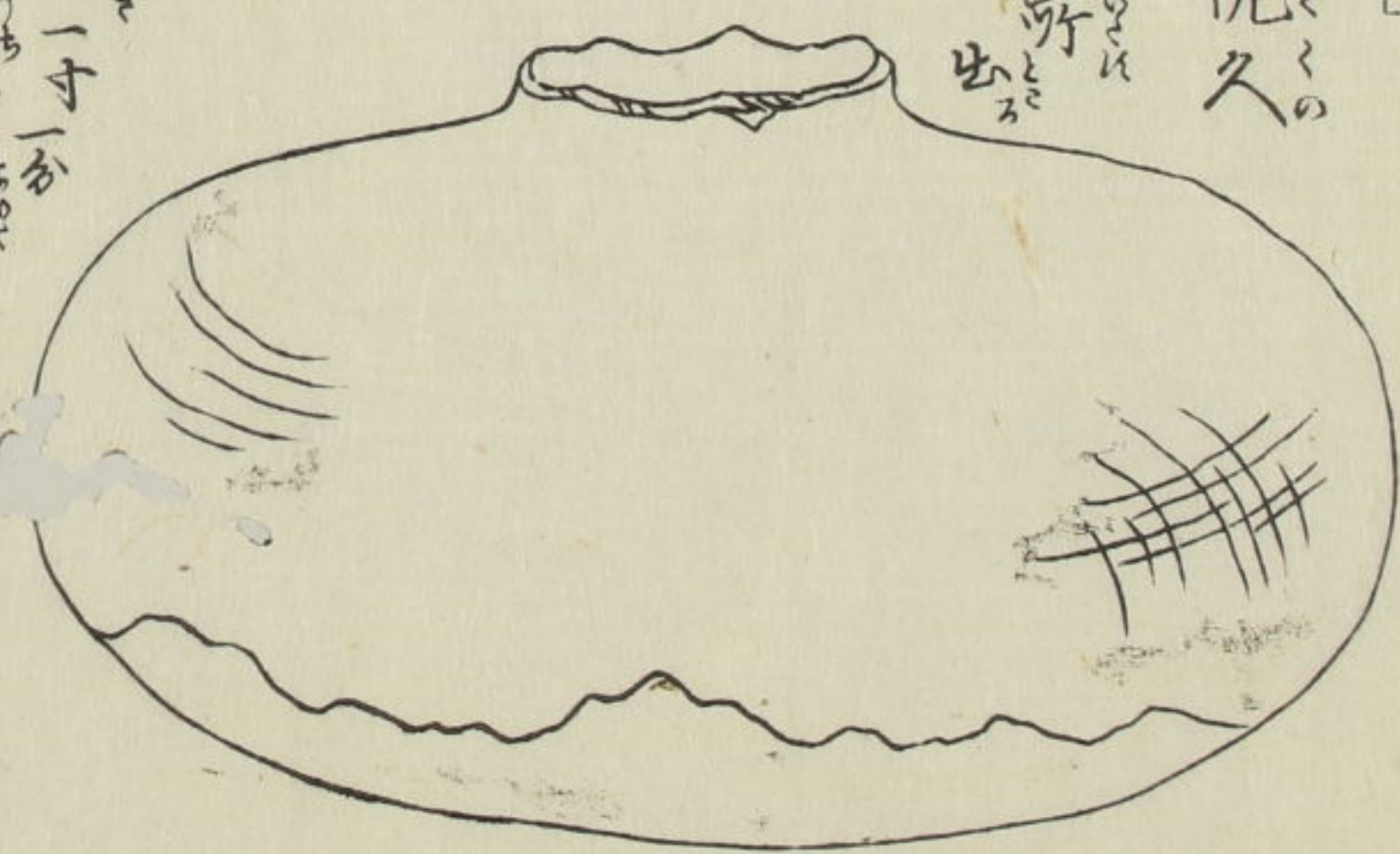
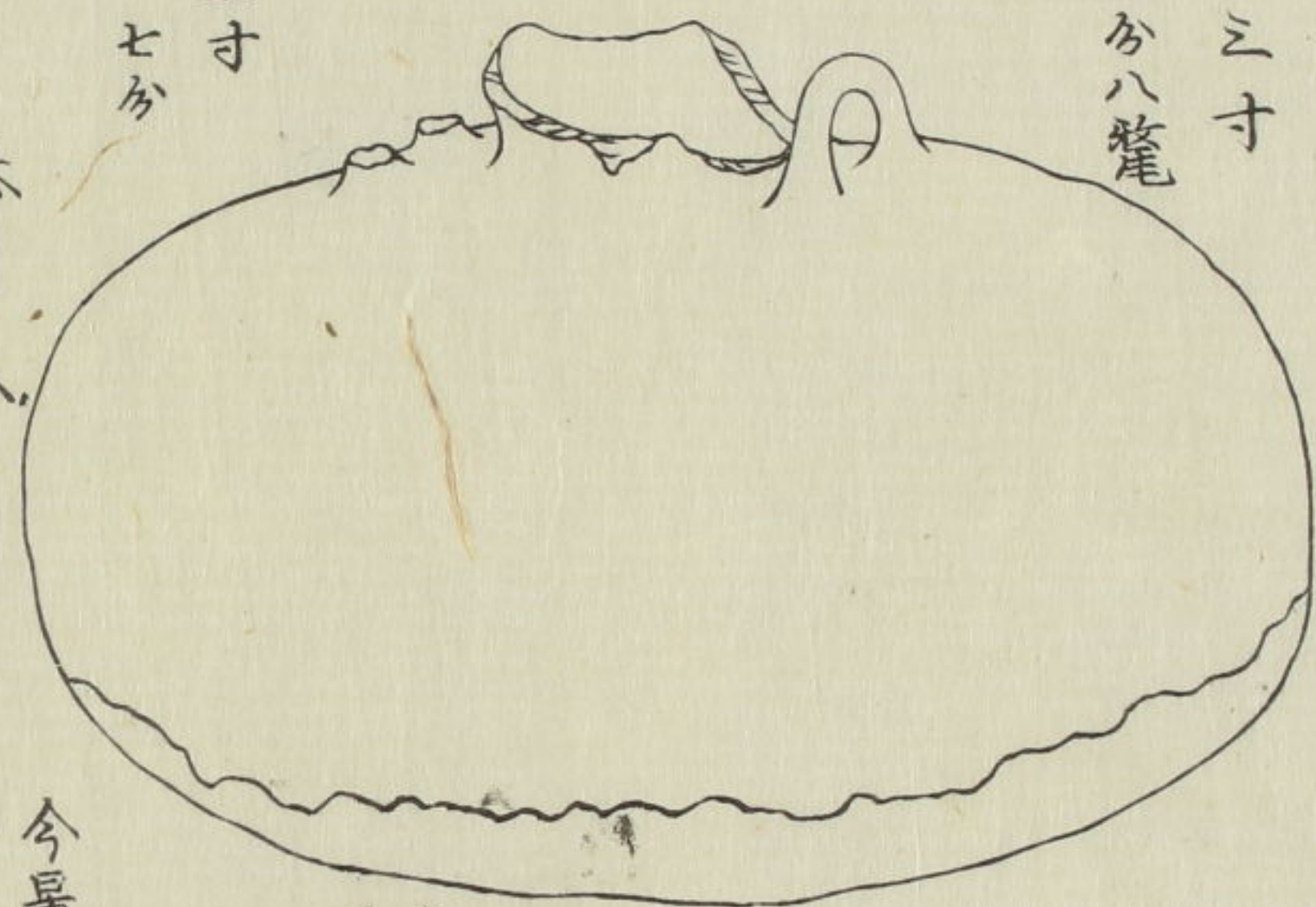
信列佐久

郡所出

乳高一寸一分

兩乳の間

一寸八分



通蓋高八寸二分

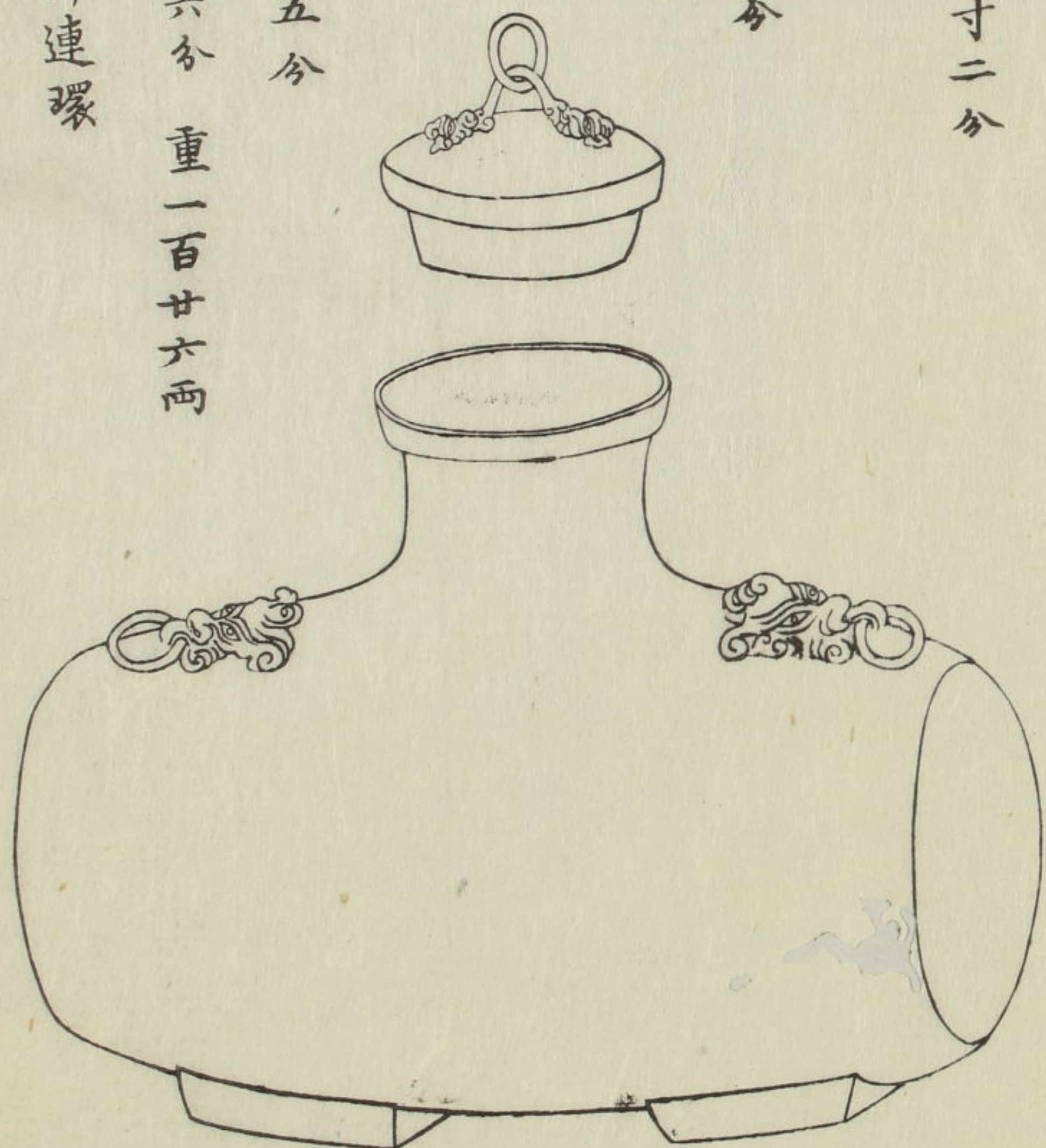
深六寸五分

口徑二寸八分

腹縱五寸五分

橫九寸六分 重一百廿六兩

兩耳連環



謂是瓦器（瓦器）一々（一々）禮器五獻（五獻）乃尊（乃尊）門外（門外）缶（缶）門內（門內）壺（壺）是缶
尊彝（尊彝）乃類（乃類）之（之）不（不）足（足）小（小）釜（釜）二有半（二有半）出（出）也（也）を（を）藪（藪）と云（と云）乃（乃）一石
六斗（六斗）藪（藪）二有半（二有半）出（出）也（也）を（を）缶（缶）と云（と云）缶（缶）ハ周（周）乃（乃）四石（四石）ハ一斗（一斗）今（今）の
缶（缶）二出（二出）也（也）を（を）鍾（鍾）と云（と云）是（是）缶（缶）ハ亦（亦）量（量）乃（乃）屬（屬）不（不）時（時）ハ缶（缶）製（製）固
專（專）陶（陶）人（人）不（不）屬（屬）也（也）不（不）得（得）也（也）とあり其（其）圖（圖）を（を）之（之）也（也）は往（往）歲（歲）信
濃（濃）國（國）佐（佐）久（久）郡（郡）不（不）地（地）を穿（穿）獲（獲）大（大）不（不）陶（陶）器（器）及（及）以（以）蜷（蜷）川（川）氏（氏）乃
所藏（所藏）乃（乃）陶（陶）器（器）と瓦（瓦）と銅（銅）と乃（乃）差（差）不（不）乃（乃）全（全）く同（同）け也（也）ハ
即（即）是（是）延（延）喜（喜）式（式）乃（乃）缶（缶）不（不）之（之）也（也）也（也）け不（不）加（加）之（之）瓦（瓦）不（不）之（之）也（也）他（他）不（不）之（之）也（也）
之（之）ハ三代（三代）乃（乃）遺（遺）製（製）不（不）之（之）也（也）獨（獨）皇（皇）朝（朝）乃（乃）物（物）乃（乃）之（之）也（也）非（非）不（不）之（之）也（也）又
仰（仰）之（之）神聖（神聖）禮器（禮器）を制（制）一（一）玉（玉）不（不）本意（本意）を窺（窺）入（入）了（了）是（是）里（里）と云（と云）以
之（之）

○孟子（孟子）不（不）所（所）謂（謂）五畝（五畝）乃（乃）宅（宅）也（也）一夫（一夫）乃（乃）受（受）之（之）處（處）也（也）司馬（司馬）法（法）乃（乃）
六尺（六尺）を歩（歩）と云（と云）司馬（司馬）法（法）乃（乃）六尺（六尺）を周（周）尺（尺）六尺（六尺）也（也）日本
絲（絲）不（不）歩（歩）百（百）を畝（畝）と云（と云）ハ畝（畝）乃（乃）百步（百步）乃（乃）地（地）也（也）と云（と云）ハ
日本（日本）今（今）乃（乃）歩（歩）乃（乃）直（直）也（也）又（又）十七步（十七步）余（余）子（子）當（當）是（是）一畝（一畝）宮
五畝（五畝）乃（乃）五百步（五百步）也（也）と云（と云）日本（日本）乃（乃）歩（歩）乃（乃）ハ二百八
十八步（十八步）余（余）乃（乃）又（又）十步（十步）余（余）を居（居）宅（宅）と云（と云）ハ二百二十步（二百二十步）余
小桑（小桑）を植（植）乃（乃）百株（百株）餘（餘）を得（得）ハ今（今）を以（以）之（之）推（推）量（量）乃（乃）百株（百株）の桑
乃（乃）藪（藪）九二貫（九二貫）錢（錢）を得（得）乃（乃）難（難）からハ藪（藪）二貫（二貫）錢（錢）乃（乃）今（今）量
二斗（二斗）五升（五升）許（許）子（子）當（當）乃（乃）二斗（二斗）五升（五升）乃（乃）藪（藪）上（上）絲（絲）二百（二百）ハ
十錢（十錢）中（中）下（下）絲（絲）二百（二百）錢（錢）許（許）を得（得）也（也）女（女）工（工）乃（乃）巧（巧）拙（拙）土（土）地（地）乃（乃）寒
暖（暖）不（不）同（同）乃（乃）少（少）差（差）也（也）ハ
大（大）概（概）と云（と云）ハ其（其）織（織）乃（乃）上（上）絹（絹）二足（二足）餘（餘）中（中）下（下）絹（絹）乃（乃）二足（二足）餘（餘）を

得^え得^え。是^{こゝ}の年々^{としとし}斯^{ごと}の如^{ごと}くお世^よは五十^{いそ}乃^{すなは}若^わ帛^{びやく}を着^きる
是^{こゝ}里^りと云^い。一^{ひと}丈^{ぢやう}百^{ひやく}畝^{あし}を受^うと云^い。百^{ひやく}畝^{あし}を日^{にっ}本^{ぽん}乃^{すなは}步^ふ
弓^{きやう}ふく五^ご千^{せん}七^{しち}百^{ひやく}七^{しち}十^{じゅう}二^に步^ふ許^こふ。當^{あた}今^{いま}乃^{すなは}一^{ひと}町^{ちやう}九^く段^{だん}
二^{ふた}畝^{あし}十^{じゅう}二^に步^ふお里^り。當^{あた}今^{いま}乃^{すなは}良^{りやう}農^{のう}一^{ひと}人^{にん}乃^{すなは}力^{ちから}ふく元^{もと}米^{まい}廿^{にじゅう}八^{はち}
石^{いし}に斗^と余^あを得^えへい。但^{たゞ}良^{りやう}農^{のう}一^{ひと}人^{にん}良^{りやう}婦^ふ一^{ひと}人^{にん}時^{とき}々^々乃^{すなは}日^{にっ}備^び
米^{まい}ふ約^{やく}租^そ税^{ぜい}を納^なめ。餘^{あま}計^{けい}世^よ石^{いし}許^こふあふへい。一^{ひと}人^{にん}乃^{すなは}
食^く一^{ひと}歳^{さい}一^{ひと}石^{いし}八^{はち}斗^とと定^{さだ}め九^く人^{にん}分^{ぶん}十^{じゅう}六^{りく}石^{いし}二^に斗^と残^{のこ}里^り十^{じゅう}三^{さん}
石^{いし}八^{はち}斗^とあり。明^{めい}歳^{さい}半^{はん}乃^{すなは}食^く八^{はち}石^{いし}一^{ひと}斗^とを蓄^{たくわ}へ其^{その}餘^{あま}又^{また}
石^{いし}七^{しち}斗^とを賣^うる。鹽^{えん}ふ交^{かう}易^い志^し川^{せん}へい。孟^{めい}子^し乃^{すなは}河^か謂^い上^{じやう}農^{のう}丈^{ぢやう}
九^く人^{にん}を養^{やう}ふと云^い。由^{よし}丈^{ぢやう}低^ひ是^{こゝ}等^ら乃^{すなは}割^{わり}と見^み合^あをく考^{かう}へ
る。然^{しか}るに地^ち力^{りき}を竭^{つき}む。經^{けい}済^{さい}乃^{すなは}始^{はじめ}と云^い。一^{ひと}或^{ある}云^い
云^い。

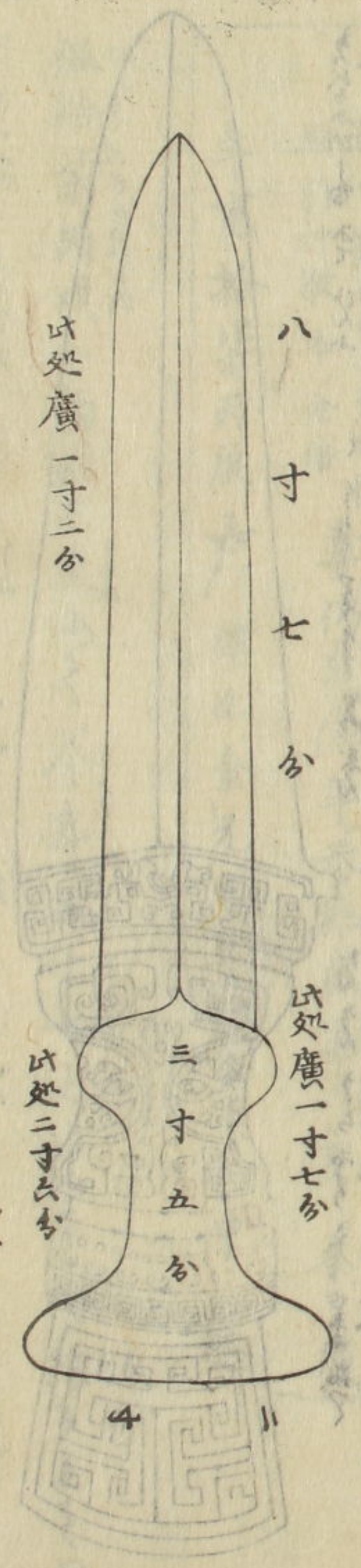
○野^の村^{むら}左^{ひだり}衛^ゑ門^{もん}と云^い。近^あ侍^{しやう}あり。加^か後^ご肥^ひ後^ご守^{しゅ}清^{せい}正^{しやう}仕^しく。
祿^{ろく}二^に百^{ひやく}石^{いし}を受^う。熊^{くま}本^{ほん}お役^{やく}も其^{その}屋^や鋪^ぽ九^く六^{りく}百^{ひやく}坪^{へい}石^{いし}と。割^{わり}と
ち^ちよ^よう家^{いへ}を五^ご十^{じゅう}坪^{へい}計^{けい}ふ。仙^{せん}里^り五^ご百^{ひやく}又^{また}十^{じゅう}坪^{へい}の処^{ところ}を
二^{ふた}百^{ひやく}坪^{へい}の圃^ぼとあり。二^{ふた}百^{ひやく}五^ご十^{じゅう}坪^{へい}ハ栗^り梅^{ばい}茶^{ちや}おとを植^う。さく
屋^や浦^{うら}乃^{すなは}總^{そう}圍^ゐハ皂^{さい}莢^{えい}と柳^{りやう}を栽^うたり。皂^{さい}莢^{えい}ハ生^{なま}枝^{えだ}をさく。焼^{やく}
ふ。然^{しか}るにの形^{かたち}色^{いろ}ハ形^{かたち}なり。ハつ若^わ芽^めを採^とる。葉^はとふさ
魚^{いさな}。柳^{りやう}すく薪^{たきぎ}とふさへい。十^{じゅう}年^{ねん}計^{けい}乃^{すなは}内^{うち}ふ皂^{さい}莢^{えい}五^ご十^{じゅう}株^{くさ}と
抑^{おさ}五^ご十^{じゅう}本^{ぽん}栗^り廿^{にじゅう}株^{くさ}。梅^{ばい}百^{ひやく}株^{くさ}。茶^{ちや}五^ご十^{じゅう}株^{くさ}。繁^{はん}茂^{まう}け色^{いろ}ハ皂^{さい}莢^{えい}
子を采^とて。衣^い服^{ふく}乃^{すなは}垢^{あか}を去^さ。餘^{あま}をるを賣^うる。用^{よう}物^{ぶつ}ハ換^かへい。
茶^{ちや}ハ我^{われ}家^か年^{ねん}分^{ぶん}り用^{よう}る。餘^{あま}をるを親^{しん}戚^{せき}り贈^{くわう}賸^{とん}。於^おあすれ
を賣^うへい。梅^{ばい}實^{じつ}年^{ねん}ハ六^{りく}石^{いし}を収^とめいと云^い。されハ三

百石の禄ふ馬二疋。侍四人。下部五人を養ひ。武具馬具。鉄炮乃用意。他乃千石より手厚うりしと云。加藤乃家絶し時野々村。江戸へ来り。或家より仕く。野村と改む。其子孫某肥後へ使し。先祖乃舊宅を問ふ。今猶柳と見筈とい。昔乃より現存せしと云。

○江別滋賀郡松本と云。如ふ。松本民部少輔乃舊居あり。五段許乃地。之方土手乃形残。其工小箭竹を栽たり。松本吉田工野介重賢の末子。射藝を好む。故。あをを伐。少く磨き。自あれを刻て用ひしと云。さき。松本細工乃書と。相傳より人あり。箭より。乃をくりし。記し。たり。日夏繁高の隨筆。ふ。と云。これ

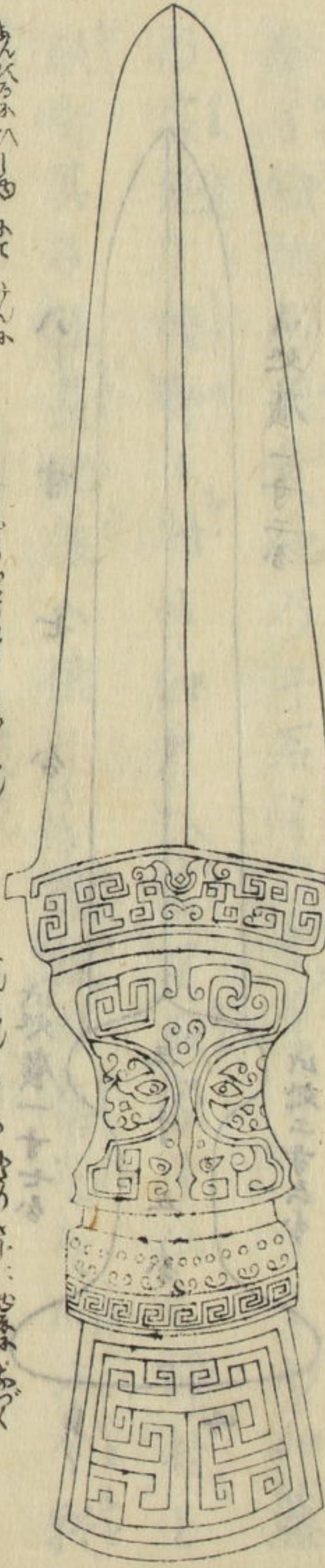
ハ。松本を通行し。度。土人より問ふ。知るもの。形。享保。不。日夏。見。時。より。せ。ふ。百年。余。是。箭。竹。伐。盡。跡。なく。あ。き。は。ふ。や。

○讃岐國香東郡高松乃海中より出。と云。劍を見。乃。長。八寸七分。櫛の長。三寸五分。さ。尺。二寸二分。あり。西。清。古。鑑。載。周。乃。七。首。精。粗。乃。差。あ。と。形。大。似。あ。き。は。ふ。と。云。へ。さ。形。



皇六十八年あり

西清古鑑周匕首 身長五寸三分 闊一寸八分 重七兩



按匕首劍而身短劉向說苑尺八短劍頭似匕故名匕首
高松海中出也今尺一尺二寸二分有奇
其尺八寸五分其尺一尺今乃六寸七分七釐許小者
明鄭世子朱載堉乃說乃裁衣尺之九寸六分在量地尺
と日本曲尺の一尺量地尺を八折して五をかくれり周
尺ありと云ふかあへる一尺七分五釐二を八折して一
分五釐あり五をかくれり五をかくれり五をかくれり
とある

○或家藏朝鮮板乃證類本草ありその標紙裏に及故を
用ひたり讀くこれ朝鮮乃戸籍ありた了編寫と

拾柒丙辰本求禮 父學生春祖展力副尉夫曾祖學生 妻
母富德年伍拾柒丙戌戸正女展力副尉李叔宗集肆 本書不
年貳拾捌乙卯本泗川 父修義副尉順京祖學生得守曾 讀安
妻南原案付館婢欣德年伍拾陸丁酉 父私奴無作母 戸正
郡守堅義外祖奮順副尉許冲敬本金海 妻仍邑德年參拾貳辛亥本 咸
年貳拾柒丙辰戸津生金兄石年肆合庚申本

伍拾柒丙戌の生あり今年五十七といふと乙卯の歳より廿八年め壬午萬曆十
け戸籍壬午の歳と知る乙卯の歳より廿二年め壬午

前車乃覆る後車乃戒と宣ひしと

○山城國葛野郡嵯峨往生院乃舊記とく。院主乃尼ろ取
出しく見きふ中元禄十八年近江國野洲郡永原村
北村中北村へ住持利貞始くを系ひ右の南寺岡山妓王
妓女出生所ふなり故たり。妓王の惠那九郎時長女なり。
妓王法尼往生建久元年七月十八日と云。中北村小妓王堂
あり是ハ之ケ村水不自由な妓王平相國スへ移る。堰を
築き功不依く。とあり尼乃書たふその形を志と
けかくしある如しあると。妓王乃没日かとい傳ふるを
あてあるへ。盛衰記より見へ。妓王妓女乃遁世の治
承和年ふ。妓王廿一妓女十九。閉四十七。佛十七とあり。

然る時建久元年の妓王廿一歳あり。妓女廿九。閉又十
七。佛廿七とあるへ。利貞尼の往生院中興。三慶利貞
比丘尼寶永元年二月九日。四十八歳あり。遷化と云
帳に見え。とく往生院。閉妓王。妓女。佛乃本像あり。
審定もふ。東海道大磯鴨立沢乃虎の像と一手り
出る物かふへ。古物ありあり。

○鎌倉右大將頼朝卿久安三年丁卯歳十月誕生。燈籠火
姓あり。御臺所政子。保元二年丁丑歳誕生。池水姓あり。
男火女水。大ふりり。子ハかたといありと。短命なり。
へ。頼家。廿三。實朝。廿。衣食共く乏しく也。常ふに舌と
ありと。二世相了見えたるハ。當ゆるや否考へ。但是利尊

嗟哉（あやう）往生（おんじやう）院（いん）安置（あんち）四比五尼（しひごに）像（ざう）

祇王（ぎおう）



祇女（ぎよめ）



往生（おんじやう）院（いん）今（いま）ハ衰廢（さいはい）ニ
一人（ひとり）住（す）キ四比五尼（しひごに）
乃（すなは）像厨（ざうど）子（こ）一（ひと）川（がわ）入（い）納（おさ）む

刀自（たうじ）



佛（ぶつ）



信兆（しんしやう）寫（しやう）

柳菴（りやうあん）雜（ざつ）筆（ひつ）卷（くわん）之一

氏卿嘉元二年乙巳歲誕生。姓火姓。御臺所未
楊相模守盛時女。德治元年丙午歲誕生。天河水姓。
男火女水。賴朝卿と全く同く。草創の武將不立以
也。奇と云。但世相は迷入人多く是と云

○大寶雜令。金目方一兩。銀目方二兩。銅目方九兩。
鐵目方廿七兩。と交易さゆ。と見。今の文意を今
より。千百に十二年前乃とあり。然。目方一兩と云は
今乃目方拾毫。五分八釐。是。二兩ハ三拾三毫
七分八釐。ふ。但。金ハ。一。吹。あり。や。沙金。ふ。や。
未詳。以。今。より。八年。過。秋。洞。元年。七月。銀。沙。銅。錢。を
鑄。立。ら。ゆ。と。續。日本。紀。不。見。之。同。二年。三月。銀。錢。銅。

錢通用乃法を定めらる。銅錢。目方三當る物ハ。
銀錢。一文。を用ひよと。依。銅。錢。和。同。開。珎。乃。善。品。
を。より。見。る。ハ。一枚。目方。毫。八。分。七。釐。八。毛。あり。
銀。錢。和。同。開。珎。一枚。目方。毫。八。分。七。釐。八。毛。あり。以。
銅。錢。四。枚。乃。目方。凡。毫。六。分。五。釐。八。毛。あり。是。を。云。
み。除。ハ。即。銀。錢。一枚。乃。目方。毫。八。分。七。釐。八。毛。あり。
然。る。時。ハ。和。銅。の。銅。錢。銀。錢。通用。法。也。大。寶。時。と。同。
割。合。と。知。へ。次。ハ。何。乃。像。ハ。銅。錢。一枚。毫。八。分。
六。二。八。銀。沙。一枚。毫。八。分。七。釐。八。毛。と。鑄。立。一。や。と。云。
之。を。考。へ。る。ハ。銀。毫。兩。ハ。今。乃。十。毫。五。分。八。釐。あり。是。
是。と。交。易。せ。る。銅。ハ。三。拾。三。毫。七。分。八。釐。ふ。あり。以。之。

拾二枚七分五釐乃銅を廿四枚不鑄三枚ハ壹枚ハ二枚
に今。六二八とある。銀十一枚五分五釐を。六枚。湯
三枚。壹枚ハ壹分八厘七釐八毛とある形。是ハ依
見れ。旧文鈔乃祖ハ和銅銀錢ありと知へ

○本曾乃贅川驛。宿里。時亭主某家。古く持傳
え。文ヲ讀解。や。節々。明らめ。よと云。取
出。を。三枚。天文永祿乃頃。消息。あり。さ。乃。賞
さ。人。書。も。あり。慶長二年。乃。端書。あり。帳。ハ
御備。なり。返。ふ。ハ。換。金。入。の。や。ハ。換。乃。物。先。ふ。れ。ハ
市。入。ふ。さ。今。あり。と。市。價。合。ふ。ハ。と。書。大。る。あ。り。ま。
世。み。珍。し。き。心。も。也。ハ。影。抄。了。せ。と。や。と。筆。紙。を。取。出。る

ハ。亭主止。く。云。それ。ハ。此。宿。ハ。か。ら。千。と。播。井。藪。原。邊。ハ
舊。驛。舍。乃。客。帳。乃。端。書。あり。影。抄。あり。と。真。乃。物。を
糸。り。と。へ。夜。明。か。ハ。此。帳。綴。直。く。と。ある。ハ。甘。え。く。
筆。を。収。め。く。聖。朝。出。三。と。忘。さ。す。也。ハ。歸。る。さ。ハ。必
と。ん。構。き。ハ。障。あり。贅。川。ハ。宿。り。ハ。ま。な。く。ハ。驛。を
六。段。往。来。あ。く。ふ。る。遂。ハ。得。さ。あ。り。ふ。く。慶。長。乃。頃。ハ
旅。人。捕。二。合。五。分。を。一。日。子。元。十。日。路。を。行。く。二。升。五。合
と。齋。を。驛。舍。ハ。着。く。湯。を。日。く。糲。を。喰。く。寢。る。と。か
ま。し。それ。ハ。湯。乃。本。の。代。に。錢。五。錢。を。拂。ハ。往。来。き。と。る
然。る。ハ。旅。人。自。り。ハ。を。湯。ふ。と。と。人。を。煩。く。く。驛
舍。乃。任。さ。く。頼。め。ハ。と。り。過。く。糲。乃。か。さ。を。殖

志藏の備を掠むるもの有りしなり。帳乃ちある。書付
並にありしなり。是に依り思へ。軍防令ふ。兵士
人こふ。備六斗を儲けり。伊勢物語乃ハ橋子。備
食く。源氏物語玉葛乃長谷ふ。豊後介。御臺か
と。打合と。むつろし。備かろ。い。論か。道有
寺あり。製衣と。根本旅行乃用意かへ。

○近江國坂田郡鳥居本驛小雨。阻ら。日一日。居。歌以
亭王の家。傳。書。見と
天正十二酉七月十三日。秀吉。関白。乃。御親

親王 兼宮 龍山 九条殿 一条殿 二条殿

王 伏見殿 宮人

関白 菊亭殿

初獻 かし粟 そき物

二献 えむ いちん

三献 ぞき ころ

四献 ともろ けつ物

花山院 久我殿

大炊御門 西園寺

徳大寺

所孟 かしきけ

所 かしき物 まい

所 かしき物 鮎

所 難者

五獻

むしむら

所々物

六獻

あひむい

うけい

七獻

たこ

くら

御本膳

あひむい
番の物
あへま
やき物
ふく

めい
山椒
金銀繪あり
お汁

二

くす
金
たこ

す
け

あつめ
鯛の汁

三

やき物

金
かま

白鳥汁

御菓子
九色

うま

やき物

揚げ

まん

豆あめ

る

お栗

を

やき

以上
ゆり花

紙乃換墨色當時寫きしをたふへく豊長太閤壯觀
を喜ひ給ひ義殿を好ましくとくふ料理書を見
せば飲食る心を明らけりけるみや

○豊長太閤伏見乃城みよゆけり頃廣間み出りて
五腰乃刀を見り試み主乃名をいふ金一とく

ちよたるけさ。新田玄以いふ。く。永食けか
はや。徹子神智ふく。り。を。ふ。く。と。と。と。驚きたり。これ。は
太閤笑。く。行乃子細。ゆ。を。く。て。形。り。金。也。ふ。く。大。脇。か
る。秀家。か。ふ。く。寸。乃。延。た。ふ。景。勝。は。革。巻。あ。く
質。素。か。る。り。利。家。乃。刀。か。り。異。様。乃。物。數。あ。せ。い。は。れ
輝。元。か。ふ。く。大。小。長。短。乃。格。好。う。り。莊。嚴。乃。相。應。を
志。い。武。義。亞。相。不。極。あ。く。と。い。わ。れ。と。か。や。常。山。紀
徒。不。見。え。く。り。実。ふ。く。乃。人。々。の。氣。象。を。あ。く。く。り。な
た。是。里。か。い。金。作。あ。く。く。美。貌。を。好。ま。く。秀。家。い。終。ふ
家。國。を。表。ふ。く。子。孫。も。あ。く。く。絶。た。り。む。く。頼。義。朝。臣
馬。物。具。乃。さ。い。る。か。ふ。は。亡。國。乃。兆。あ。り。と。古。く。一。城

戒めむひとことを思ふ。魚。伊勢家五乃書たふ。大冊
子。ふ。二。方。板。家。都。お。軍。北。所。腰。乃。物。ハ。鞠。ぬ。ま。お。く。く。
欄。皮。出。く。も。と。金。あ。く。く。柄。の。ら。同。系。を。黒。く。塗。
れ。い。又。欄。に。金。も。く。く。同。系。所。同。貫。丸。乃。四。乃。誤。ふ。柄。
局。を。け。け。所。算。赤。銅。く。く。焼。付。と。あ。る。か。と。考。合。さ。れ
い。金。無。垢。乃。小。道。具。ハ。用。也。き。き。あ。り
○寛永三年八月。所。上。洛。乃。時。路。次。中。宿。賃。所。定。書。と。て
令。條。記。り。見。え。く。り

一人ふに文 一馬ふに文

但。自。名。薪。燒。い。く。人。乃。式。文。馬。乃。旧。文。馬。屋。ハ。多。く。自
分。薪。た。く。い。く。式。文。馬。屋。ハ。多。く。共。亭。主。く。薪。い。く

一京ふくひ。馬屋うまや無く。そとより繫つかく。自名いふなの薪たき女に父

今考ふ。寛永錢に文は。金一兩千分一あり。金一兩に
貫文あり。

此は今乃錢六文又分り南ると云へけ也と云慶長

金こんと。今乃金と。用方めうく由同くす。通用くうよう乃賈あさひ由いまだら詳しやうか

引替ひきかへと賜たまふと割わりふと知しる。大抵おほむね一倍いちばい

當^あふ。以^いに文と云を。今乃六文又今直^おし。以^いを倍

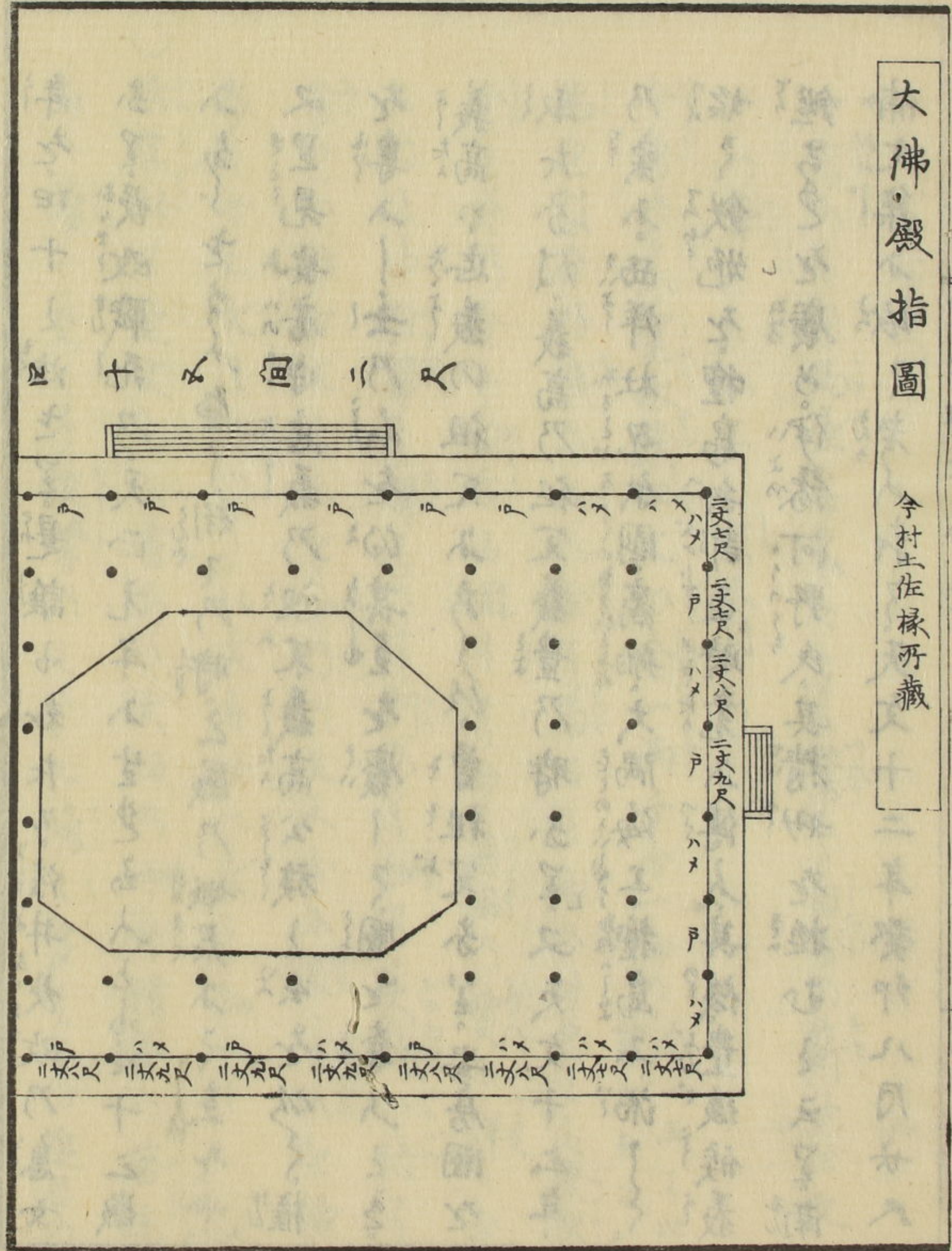
去々十之文と知へ^し。八文が廿六文と。知へ^し

○活字板了逸史と云書あり。大坂乃中井積善乃著述あり。讀く見く。校讐乃とくかぬ條く多し。まづ淀君の

年を。四十二と注せり。是誰に知たる。後井長政乃息女
 か。長政戦死。乃天正元年。お生れ。あ人と。も。四十二歳
 おあり。せり。入。屋。一。時。二。歳。乃。姫。君。ふ。と。を。や。
 又。里。見。安。房。守。忠。義。乃。祖。父。義。高。公。族。と。云。を。以。て。權
 を。專。ふ。一。士。乃。ん。を。得。其。主。を。廢。一。國。を。奪。ふ。と。も。
 義。高。の。忠。義。の。祖。父。ふ。あ。り。次。曾。祖。父。あ。り。安。房。國。を
 取。た。か。は。義。高。乃。祖。父。義。豊。乃。時。あ。り。又。天。文。十。二。年
 乃。桑。小。西。洋。杜。瓦。尔。國。商。船。大。隅。海。上。種。島。小。泊。り。り。
 始。て。鉄。炮。を。種。島。兵。部。丞。時。堯。小。傳。へ。其。後。豊。後。候。義
 鑑。出。せ。を。廣。め。伊。豫。河。野。氏。其。精。妙。を。抱。む。と。云。り。南
 浦。文。集。小。依。り。考。へ。た。り。天。文。十。二。年。癸。卯。八。月。廿。又

大佛殿指圖

今村土佐塚所藏

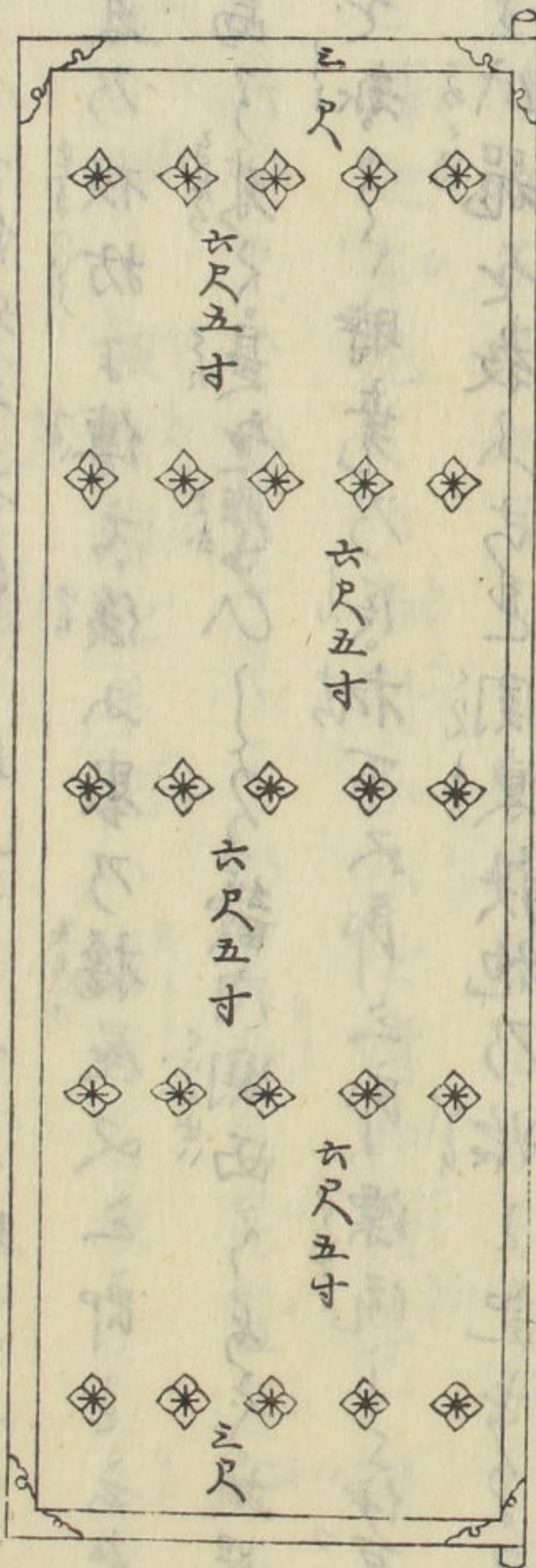


扉

軸長二寸五分

止

梁間廿七尺八寸



總長三丈二尺

四葉大サ六寸

一段五ツ

日。年長叔舎喜利志多陀孟々乃二人舩を種子島小
寄たり。鉄炮を持渡り時竟る傳へ時竟る傳へ
を根来乃板坊子傳へ後小畧乃橋屋又三郎と云々
種子島より來る是を學ひし。畿内關西より來る此砲
あふを教ふ時竟る乃松下又三郎漂流し伊豆
不到里に罷を教ふ此關東鉄炮乃始と記さる。又
北条氏代記より鉄炮と云々永正七年小初に渡り
關東へ。享祿元年より傳へ此と記さる。又甲陽軍
鑑に大永五年鉄炮二挺甲府へ來ると記さる。彼是
を通考する。天文十二年と云説を誤かると言は
る。以かちり乃説さへかくる。いふ。その餘

乃事實の講究乃至當あぬ多うかへ。

○洛東乃大佛を釋迦牟尼佛あると論を待む。然るを
南禅文英叟清轉長老乃書を依鐘銘小天正十六戊
子夏之孟相攸於平安城東創建大梵刹安立盧舍那
大像矣と見ゆ。翻譯名義集に盧舍那此小光明編
照と云。釋迦牟尼此乃能仁寂默と云。また終に盧
舍那と釋迦牟尼との各別あふを清幹長老一體と
思ふは法あり。いふ。し。那里或る毘盧遮那の
法身盧舍那の報身釋迦牟尼の應身と表し。三身
一體とあると云説に依り。い。ゆる。然。と。云。
小分記に。あ。ぬ。故。之。小分。し。い。盧。舍。那。と。釋。迦。と。

一、あめと云々、依代大佛豊后太閤乃作らるゝ
塑像、南都法二宗貞法印を、弟宗印法眼ありと
かや、然る小慶長元年閏七月十二日地震、崩れたり
去る、其跡へ信列善光寺乃、如来を遷えたり、同二
年八月十八日、如来依列へ歸を、あつて後本像、あさ
と云、同三年八月十八日太閤薨御、廿二日大佛、教供養
て銅像とあされけり、十二月四日鑄工乃失火、小依、大
佛、教焼失たり、十六年六月、小至、銅像、あて
成就、北銅像寛文二年三月廿四日、乃大地震、
破損、あより御首を、取おろし、佛體乃中へ七寸

角千本、ゆき、傾きを修理、ける、六月朔日、乃大地震
震、あつて出、北、佛體、小、破壊、せ、あより、新、小、
像を、作らる、舊、像を、同八年より、天和三年まで、十
六年、乃、間、江戸、亀井戸、あ、錢、鑄、らる、この、
今、現存、する、文錢、あ、然、を、込、左、兵衛、大尉、狗、兩、庸、の
書、あ、里、寛永、錢譜、小、松平、信綱、乃、建議、あ、里、と、云、と、信
大地、震、より、八日、前、あ、市、町、或、信綱、主、乃、議、る、依、
あ、を、毀、ち、振、る、あ、る、偶然、り、地震、る、由、里、つ、あ、る、
京都、富、小路、二、条、下、る、慶、願、寺、あ、

大佛、教、出来、入、目、覽

一、金、二、万、二、千、三百、八、拾、枚、
一、銀、二、万、二、千、七、拾、四、貫、目、
以、米、高、百、二、拾、八、万、二、千、六、百、四、十、石、
以、米、高、百、二、拾、八、万、二、千、六、百、四、十、石、

一斗計拾三万七石

米高斗百九十六万八千六百石斗

慶長十八年

二月六日

板倉伊賀守致

并州仕三ノ者也

と云書付あり。金を枚ふ。之十一石七斗八升七合六勺餘。了
南米相場あり。銀を貫目より六十石八合六勺餘の相
場あり。金を枚。銀五百廿九匁七分を籠余乃相場と
へ。次り式百九十六万八千六百石斗を金に替へ
ハ。九万二千五百八十枚餘。了。南米今時乃小判ハ

増田右衛門尉

て二百三十三万四千六百廿八兩許金一枚廿八兩

易へ。米ハ今小判一枚ハ一石斗七升を合五勺

乃法量今錢百文より一か也ハ二匁乃利多なりと思

ふ。今ハ金一兩價をハハ一石斗

○三井越後守源高安ハ。越後守高次乃男ハ。津越國

安濃郡一色村に住。後ハ富田信濃守子属。慶長三

年八月廿二日津ハ。彼ハ西來寺ハ葬。里ハ明宗觀

と云。高安ハ男子四人あり。長子ハ郎助高時。次男ハ

郎兵衛某。之男傳某。三男則兵衛高俊ハ。高俊乃

長男ハ。郎兵衛門俊貞。京より出。賈ハ服。之衆室町

子。三男ハ。男八郎兵衛高利ハ。京より出。新

町六郎住。高利小男子十二人女子五人あり。長男八郎兵衛高平。此子孫を北乃次男八郎右衛門高富。幼名を長子郎後小次郎右衛門と改め。又八郎兵衛と云。此子孫を六角三男を三郎吉高治と云。後三郎兵衛三郎助八郎右衛門と改む。此子孫を新町四男を万助高伴と云。後小次郎四郎八郎右衛門元右衛門。次郎右衛門。九右衛門と称す。此子孫を竹と五男五郎八安長。初系。松屋五郎右衛門養子。此乃石川尚舎君と交際。里一か。石乃一字を賞ひ。我井字。小合。世。石井と称す。六男を元右衛門高好と云。此子孫を出水七男八男ハ早世。九男八郎次郎高久と云。十男宗八高春。十一男元八

高勝。兄八郎右衛門。十二男次郎高久。後小勘右衛門。八郎次郎。薙髪。宗悦と云。此子孫を南十三男ハ半兵衛孝賢。實ハ櫻井氏。松坂了住と云。松坂小野田俊貞。三男吉郎右衛門高古を養ふ。石井安長。女小合を松坂了居と云。高利十三女を松坂乃長勝。其小嫁を其游蕩と云。離縁。此と云。男女の子あり。け。産を分ち。室町了居。實父と母と。乃氏を合さ。長井と称す。高利子男女十八人。孫は十六人。曾孫は十八人。玄孫六十人。及小繁昌と云。へ。高利元禄七年七十二歳。没と云。ハ貞享乃江戸廻。編目了。越後。八郎右衛門と云。ハ高利ある

○天明^{あけみ}にけく世産^{せいさん}を治む術^{ぎゆつ}。妙^{めう}を得ゝあふ盈^{えい}
小田原^{おだわら}乃北条氏^{きたじょうし}は仕たす。遠山^{とやま}神田^{かんだ}景氏^{かげし}と云^{いひ}
人々^{ひと}武義^{ぶぎ}國久良岐郡^{くらきぐん}谷利谷^{やぶりや}と云地^ち乃領主^{りやうしゅ}たり。地^ち
理^りを盡^{つく}以術^{ぎゆつ}。妙^{めう}を得るゝと云。其一二^{そいつに}を閑^{かん}ゝ。或^{ある}
者^{もの}景氏^{かげし}。此^{この}令澤^{れいさく}乃入海^{いりうみ}を埋^{うみ}。固^たとかさは。若平^{わへい}乃
利^りあふへ。今姑^{いまいづ}く境目^{きやうもく}乃無事^{むじ}あふ時^{とき}ふ當^{あた}まゝ。此企^{このくんとて}
をかさは萬世^{まんせい}其賜^{そのたまひ}を受^うへ。勸^{すす}めり。小景氏^{こかげし}は
默然^{もくねん}して物^{もの}はいふやあう。け入海^{いりうみ}乃作^てを見ろ。人^{ひと}
乃穿^{こう}たふ。有^{あり}へ。寸^{あと}天地^{あめつち}乃自然^{ぜんぜん}に握^くく。あふへ
々々^{しずしず}の爰^{ここ}を埋^{うみ}たる。田^たとかさは。天地^{あめつち}より他^{ほか}にけ入
海^{うみ}を穿^{こう}つへ。尤^{なほ}あう。我^{われ}領部^{りやうぶ}に利^りあうとも。必^{かならず}外

小損ありを願ふ。として開入せり。とあり。又我云鶴見
 乃原ハ四方六里ふ及ふを願ふ。鎌倉將軍家乃時より
 新田ヲ取立たまふ。企つる人あり。かきとゆ。其出と
 成る。いづら。其の思慮乃精々。ぬかふを願ふ。今是
 を想起し。あひおは。末代まゝ。乃益。あゝんと其のし
 けむ。暫時物を案じ。かきとゆ。筆をとる。に
 方六里ハ徑一里半あり。此田歩凡一千。四十九万
 七千六百歩あるは。町段法より二万九百十六町を
 路敷畔畝かと引去る。二万町許乃田畑かきとゆ。
 農夫に人許り。佃處あり。田畝ハ少く。作人多
 ハ利あり。人少く。田畝多ハ損あり。新田を思

立^たち^ては^り古^こ田^た乃^の荒^あき^きら^んと^とあ^あき^き願^ねり^り々^々と^と云^い
たり^り々^々と^と形^かり^り

折^し筭^そ雜^ざ筆^へ卷^{くわん}之^の一^{いち}終^{しゆう}

